

医療従事者の倫理的行動と属性との関連

澤田美和¹⁾、明石恵子¹⁾、松田麗子²⁾、中神克之²⁾、森木ゆう子³⁾、江口秀子⁴⁾
1)名古屋市立大学、2)名古屋葵大学、3)大阪公立大学、4)鈴鹿医療科学大学

目的

研究者らは地域の中で臨床倫理問題についての事例検討会を継続的に開催しており、そのなかで、職種による価値観や倫理的推論の違いを感じている。先行研究でも、専門的な価値の志向の強さは職種間に差があることが報告されている。そこで、臨床における倫理的行動にも違いがあると推察し、医療従事者の倫理的行動の実態と属性との関連を明らかにすることを目的とした。

方法

対象：A地方の医療施設に勤務する看護師、医師、薬剤師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士（PT・OT・ST）、ソーシャルワーカー（MSW）等

調査方法：Webによるアンケート調査

調査内容：倫理的行動尺度（20項目）
6段階リッカート

属性（年齢、性別、職種、現職種の経験年数、職位、所属施設病床数）

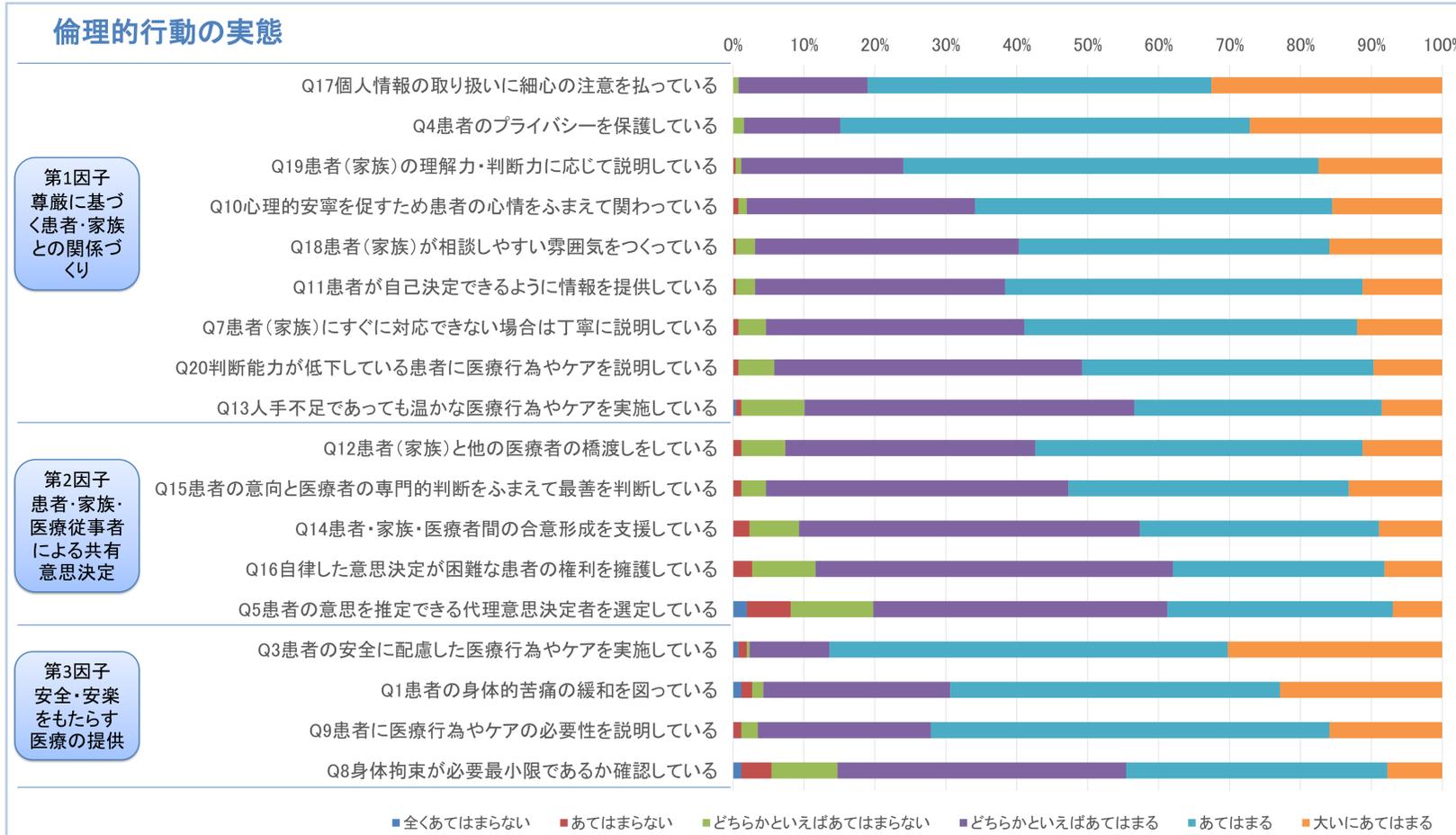
分析方法：SPSS29.0を用いて倫理的行動と属性の記述統計

倫理的行動尺度の20項目に対して探索的因子分析を実施し、2項目を除外した3因子18項目にて、倫理的行動と属性との関連を分析

倫理的配慮：所属施設の研究倫理審査委員会の審査を経て、機関長の承認(24039-2)を得て実施

結果

対象数：研究実施の許可を得た8施設2025名、有効回答258名（有効回答率13%）



倫理的行動と属性との関連		n	第1因子			第2因子			第3因子		
			平均	標準偏差	p値	平均	標準偏差	p値	平均	標準偏差	p値
職種	医師	27	4.87	0.53	0.195	4.64	0.55	0.045	4.99	0.50	<.001
	看護師	138	4.77	0.54		4.40	0.67		4.88	0.61	
	PT・OT・ST	63	4.81	0.53		4.47	0.64		4.84	0.58	
	その他(薬剤師・MSW等)	30	4.59	0.60		4.15	0.85		3.96	0.81	
現職種の経験年数	10年以下	93	4.77	0.58	0.981	4.36	0.72	0.186	4.66	0.73	0.113
	11-20年	74	4.78	0.50		4.54	0.61		4.88	0.63	
	21年以上	91	4.77	0.55		4.38	0.69		4.80	0.68	
職位	係長・主任以上	114	4.73	0.58	0.329	4.40	0.71	0.802	4.78	0.68	0.945
	一般職員	144	4.80	0.52		4.43	0.66		4.77	0.70	
所属施設の病床数	200床未満	67	4.81	0.51	0.460	4.41	0.74	0.437	4.79	0.62	0.794
	200床以上400床未満	94	4.72	0.56		4.35	0.69		4.74	0.76	
	400床以上	97	4.80	0.56		4.48	0.64		4.80	0.66	

- 倫理的行動の3因子と属性との関連を分析した結果、経験年数、職位、所属施設病床数における差はなかったが、職種における第2因子($F=2.717, P=.045$)と第3因子($F=19.883, p<.001$)の平均値に有意な差があった。事後検定で看護師と他の職種との差を確認したところ、第3因子でその他(薬剤師・MSW等)よりも有意に高く、医師、PT・OT・STとは差がなかった。

考察

- 看護師の倫理的行動は、「安全・安楽をもたらす医療の提供」において、医師やPT・OT・STとは差がなかったが、薬剤師・MSW等との差が認められた。この差は、直接的な医療・ケアの提供、対話の頻度、継続的な関与など、職種による患者への関わり方が影響していると考えられる。
- 多職種間における倫理的行動の特徴を認識した上で、患者にとっての最善の医療を提供できるように協働する必要がある。